ANTA国内観光活性化フォーラム in 和歌山　開催記念特集

和歌山から観光の未来創造

「第10回国内観光活性化フォーラムin和歌山」が来年2月11日、和歌山市で開かれる。主催は全国旅行業協会（ANTA）、共催は全旅。着地型旅行の推進をはじめとした国内観光の活性化をテーマにパネルディスカッションなどが行われる。開催まで残り2カ月。ANTAの二階俊博会長（衆議院議員、元経済産業相）、開催地である和歌山県の仁坂吉伸知事、さらに観光庁の久保成人長官にも加わっていただき、フォーラムの意義や開催への意気込み、期待を語ってもらった。

（東京都千代田区のホテルニューオータニで）

～鼎談　フォーラム成功へ　和歌山から観光立国を語る～

観光庁長官
久保成人氏

全国旅行業協会会長
二階俊博氏

和歌山県知事
仁坂吉伸氏

地域潤してこそ観光　二階
仁坂　誇りも育む重要産業
関係者の連携強化を　久保

――（司会＝編集部・板津昌義）和歌山で開かれるフォーラムは第10回の節目の大会となる。

二階　2003年度から毎年、全国各地で開催してきたが、今度の開催地、和歌山県は、私の出身地でもあり、多くの観光関係者を地元にお迎えできることはとてもうれしい。全国から1万人の参加者を集めることを目標に大会の準備を進めている。観光振興にとても熱心に取り組んで頂いている仁坂知事、久保観光庁長官にも出席をお願いしている。

仁坂　和歌山県での開催を歓迎している。1万人が参加するとあれば、その経済効果は相当なもの。しかも参加者は全国各地の旅行業を中心とする観光関係者で、言わば、お客さまを集めて和歌山に送ってくださる方々。そうした方々が和歌山を見てくれるというのはまたとない機会。和歌山県にとってはビッグイベントだ。

久保　このフォーラムの意義は、旅行業と地域の観光関係者が一堂に会し、情報共有や意見交換を通じて連携を深められること。幅広い関係者の連携の強化は、地域の観光振興を進める上で重要な課題だ。観光庁が進めているさまざまな事業とも狙いは一致する。観光庁としても、フォーラムが盛り上がるように応援している。

二階　知事と長官にそれだけ理解してもらえれば、必ず成功する。観光産業は層が厚く、幅の広い産業なので、できるだけ多様な関係者に参加を呼びかけている。地方で行事を開く際に思うことは、会場とそれ以外の地域、参加者とそれ以外の地域の皆さん、両者の間の盛り上がりがかけ離れてはいけないということ。観光関係の行事は特にそうなってはいけない。例えば、和歌山県は、観光に加えて農業も盛ん。国内観光活性化フォーラムには農業関係者にも参加してもらい、会場で農産物をPRしたり、販売したりするといった試みも考えてみたい。観光を通じて農産物のイメージアップや販売拡大につながれば、農業関係者の観光への関心は高まり、観光産業が地域の発展に貢献しているという認識を広めることができる。そうしたことが観光産業の地位向上につながる。

――観光産業の位置づけは和歌山県においてはどうか。

仁坂　和歌山県にとって観光は重要な産業の一つだ。県内における観光消費額は年間約2千億円。その経済波及効果は約3700億円で、県内生産額の5・6％を占めている。この水準は全国を上回っており、他県以上に観光を大事にしないとならない。ただし、観光の重要性は経済だけではない。なぜ観光客が和歌山に来てくれるのかと言えば、それは和歌山に魅力があるから。つまり観光が栄えることは、魅力が評価されていることの証。これは県民の誇りになる。観光を振興する上での心の持ち方が大切だ。

久保　政府も、観光は地域経済を活性化させ、国の柱になり得る成長分野であるという認識の下、観光立国の実現に向けた施策に取り組んでいる。経済効果を国全体でみると、国内の旅行消費額は年間約22兆4千億円。その経済波及効果は約46兆4千億円で、国内産出額の5・1％に相当する。397万人の雇用を生み、これは全国就業者の6・2％に及ぶ。観光がいかに重要な分野であるかが分かる。

観光を振興する意義が経済だけではないというのも、仁坂知事がおっしゃる通りだ。住民が地元の魅力を認識し、磨き上げ、伝えていくことが観光振興には不可欠。住民自身が心のよりどころとする歴史や文化、自然があるからこそ、観光が魅力的なものになる。また、国際観光の意義も大きい。交流を通じて相手国との関係を強化するという意味で、観光は代表的かつ重要な民間交流だ。

二階　観光を振興する上で重要なことは、観光は双方が常にウイン・ウインの関係であるべきだということ。特定の観光事業者だけでなく、関わるすべての人が潤うものでなければいけない。観光のために働いてきたのは、それが地域の発展につながるからだ。

――フォーラムに合わせて和歌山での着地型商品「地旅」も企画されているが、和歌山県の観光の魅力とは。

仁坂　いろいろな表現があるが、いいなと思うのは新宮市出身の詩人、佐藤春夫の詩の一節、「空青し山青し海青し」。ほのぼのとし、自然が美しく、どこか懐かしさを感じさせる。和歌山の魅力は、そうした自然の中にいろいろな資源がちりばめられた点にある。温泉でも海の温泉もあれば、山あいの温泉も、川の中の温泉もある。景勝地も海、山、川にそれぞれの美しさがある。歴史、文化の魅力も豊富だ。寺、仏像といった国宝、重要文化財の数は全国で7位。長い歴史が育んだ伝統的な文化が各地の暮らしに息づいている。

久保　私は生まれ育ちが大阪で、近畿運輸局にもいたので、和歌山県各地を訪れているが、やはり超大型の観光資源と言うと熊野古道。世界遺産に登録される以前に2度ほど部分的に歩いたが、存在しているだけで光を放っているような文化遺産だ。観光資源と言っていいか分からないが、熊野古道とともに世界遺産を構成する高野山もある。

仁坂　来年、世界遺産登録10周年を迎える。熊野古道や高野山は「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」でも三つ星。特に、精神文化への関心が高い欧州の人たちにとっては、魅力的な場所であるようだ。温泉や食文化などを含めて、外国人旅行者に紹介したい観光資源も豊富にある。

久保　もちろん世界遺産以外にも、魅力的な観光資源がたくさんある。観光庁では今、「この観光資源を活用したい、発信したい」という地元の意向にこたえ、地域を支援する取り組みを進めている。その一環の「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」では、和歌山県内でも複数の事業を支援している。その一つが全国唯一の飛び地の村として知られる北山村で実施されている。村の伝統文化であり、伝統産業でもある「筏（いかだ）流し」を基にした「観光筏下り」の情報発信や旅行商品造成をお手伝いしている。このようにさまざまな観光資源があり、それを生かそうという熱意のある方々が多くいることが素晴らしい。

二階　北山村の観光筏下りの評判は聞いている。そのほかにもユニークな観光スポットでは、初代林家三平さんのご令室、海老名香葉子さんが名誉館長を務める、すさみ町にあるエビ・カニ専門の小さな水族館「エビとカニの水族館」などにも多くのファンがいる。県内で開催されるスポーツイベントの人気も高く、新宮市・那智勝浦町の「天空マラソン」や上富田町の「紀州口熊野マラソン」は市、町を挙げたイベントで、国内外から多くの参加者がある。また、江戸・明治期の廻船の航路は、西廻りの北前船が有名だが、和歌山と東北を結ぶ航路もあり、東北との縁を生かした観光による復興支援も考えられる。

仁坂　ご紹介いただいたように、いろいろな要素があるのが和歌山県の観光の強み。和歌山ならではの体験プログラムを提供する体験観光という新しいジャンルも売り出している。農林水産業の作業を体験したり、カヌーなどのアウトドアスポーツを体験したりと、その参加者は年間で約30万人に上っている。

二階　それらの観光地や観光プログラムを「観光庁長官推奨」としてPRしてはどうか。それを民間でパンフレットや絵葉書にして宣伝に活用する。フォーラムをきっかけに和歌山県で取り組んでみては。効果があるようならば、全国に広めたらいい。

久保　地域のお役に立てることがあれば、ぜひ検討したい。地域が磨き上げた観光資源を国内外の人々に広く知ってもらう必要がある。

仁坂　情報発信にはいろいろな工夫が必要だ。調査会社の都道府県別の旅行満足度調査でも、和歌山県は子ども、若者、大人と各層で評価が高いが、旅行者の求める要素はそれぞれに違う。外国人を含めてそれぞれに合ったプロモーションを展開していく。同時に、おもてなしをさらに磨いていきたい。熊野古道が千年以上にわたって参詣道として親しまれ続けているのも、受け入れる地域におもてなしの気持ちがあったからだ。

――フォーラムの成功に向けて観光関係者にメッセージをお願いしたい。

仁坂　フォーラムを通じて、ビジネスのチャンスをつかんでもらうのはもちろんのことだが、和歌山県としても県民挙げて一生懸命にもてなし、和歌山の地旅では自慢の観光資源を紹介するので、和歌山への訪問の機会を十分に楽しんでもらいたい。

久保　着地型旅行を中心に国内観光を盛り上げるためのフォーラムなので、旅行業はもとより全国の観光関係者に足を運んでもらいたい。国内各地の観光の活性化、観光立国の実現に必ずやプラスになるはずだ。観光庁もその成果に期待している。

二階　参加者数1万人を目標にすると言った時はみんな驚いていたが、今日では、受け入れる地元も盛り上がっている。パネルディスカッションには日中韓の観光業界を代表する方々にご登壇いただくほか、和歌山県出身の芥川賞作家、辻原登さんの記念講演もある。さらに日本体育界を代表するような魅力的なゲストも駆け付ける。観光の活性化のために総力を挙げて取り組むので、多くの皆さまに参加してもらいたい。

ANTA国内観光活性化フォーラム in 和歌山　開催記念特集

「地旅博覧会」を初開催

着地型旅行の成果を消費者に発表

国内観光活性化フォーラムと併せて、その隣接会場では、一般消費者を対象とした地旅PRイベント「第1回地旅博覧会in和歌山」が開かれる。主催する株式会社全旅の池田孝昭社長に着地型旅行「地旅」の取り組みの現状や地旅博覧会の開催目的などを聞いた。

株式会社 全旅 池田孝昭社長

旅行業界の将来像を描く

「地旅の宿ネットワーク」も設立

――なぜ着地型旅行「地旅」の取り組みを進めるのか。

「大きな三つの理由がある。一つは消費者ニーズが様変わりした。以前は我々が提供する情報や企画でお客さまはみんな満足してくれたが、今は違う。情報はインターネットなどいろいろなところから取れるから、我々よりも詳しい人がたくさんいる」

「少子高齢化で人口が減少し、地方の経済が疲弊していることが二つ目。我々ANTA会員の旅行業者は定年も退職もなく、一生その地域の住民だ。地域が発展しなければ、我々の将来は成り立たない」

「三つ目は、旅行業界の形態が大幅に変わったということ。JR券、航空券など単品の旅行商品はネットに持って行かれている。その収入減を補わなければならない」

「そうしたことから、今までのように地元からお客さまを出すだけでなく、全国から地元にお客さまを受け入れる着地型旅行を15年前から推進している。地元に誘客することは、地域の経済力のアップにつながる。地域経済が豊かになると地元の人たちの旅行も増えるわけだから、着地型旅行の推進は、出す方の旅行業にもプラスになる」

――会員の取り組みの進み具合はどうか。

「ANTAに5500の会員がいるなかで、着地型旅行に参加するのは150社だ。取り組みは増えているが、まだまだだ。今までは旅行の造成、販売、そしてお客さまの案内まですべて旅行会社の目線でやってきた。その習慣が半世紀に及んでいるから、着地型旅行の基本的なスタイルがまだ十分に理解されていない。着地型は農業や漁業をやっている人や行政など地域の皆さんと一緒になって知恵を出し合い、我々旅行会社が商品にまとめ上げる。会員の多くはまだ自分で作るという考えを持っているので、その意識を変えることが必要だ」

――一方、販売の部分ではどうだろうか。

「これまではチラシなどを使って商品販売をしてきたが、当社にネット事業部門を設け、今年4月からネット上でも商品の紹介を始めた。そのネットユーザー1万4千人から『これはいい』と高い評価を受けている。予約の連絡が販売している会員旅行会社に直接行くので、どれだけ取引に結び付いているのか集計できていないが、1万4千人のうちの40%ぐらいだろうと予想している」

「評価が高いということは、着地型旅行商品が旅行会社の目線で造成された今までの旅行商品とはまったく違う、と消費者が認めている表れだ。これからますます多くの人々が実際に商品を買ってくれるものと見ている」

――地旅博覧会の目的は。

「着地型旅行を提唱し始めた頃は、着地型旅行と言っても会員の皆さんはなかなか理解できなかった。だから10年前に、その勉強の場として国内観光活性化フォーラムを開催した。それが回を重ね、次で10回目だ。もう花は咲いたわけだから、これから収穫しなければいけない。第1回地旅博覧会は、勉強した成果を一般消費者の皆さんに発表する場として初めて開催する」

――どういったプログラムを用意しているのか。

「メーンテーマは『弁財船・北前船と日本の祭り』。昔、物を遠くへ運ぶ時に陸路はたいへんゆえに、海路が主だった。その物流の基本が弁財船や北前船だ。物資を運んだ船乗りたちは港、港で歌い踊り楽しく過ごした。その弁財船や北前船が伝えた熊本の牛深ハイヤ節が、徳島では阿波踊り、佐渡では佐渡おけさ、と全国に広まった」

「会場ではその全国のハイヤ節を披露し、来たお客さんに『さすが日本の祭りは素晴らしい』と喜んでもらう。また、『雑賀鉄砲衆による火縄銃演武』や『和太鼓演奏』『藤原定家の熊野詣』など和歌山にまつわるイベントを行うほか、日中韓越交流イベントとして中国、韓国、ベトナムの演奏や歌も披露するなどさまざまな企画を用意した。日本全国の物産も販売する。旅行をすることによって楽しめるその土地の魅力を紹介して、消費者に着地型旅行の良さや全旅の組織を理解してもらおうと考えている」

――会場では、着地型旅行に取り組む旅館・ホテルを応援するための「地旅の宿ネットワーク」の設立も発表する予定だ。

「例えば、ある温泉旅館で、お客さんが『早起きしてどこかに散策をしたい』と言ったときに、『この地域にはすばらしいところがあります』と案内をする。また温泉に入った後に周辺のナイトツアーを紹介する。これは着地型旅行でしかできない。今、我々の仲間に入って、ぜひ協力してほしいと旅館・ホテルに呼び掛けている。旅館・ホテルにとっても着地型旅行は他館との差別化になるはずだ」

――地旅博開催まであと2カ月に迫った。

「初開催となる地旅博覧会で我々の旅行業界は3年後、5年後にこうなるという絵を描き、消費者に示そうとしている。集客目標は1万人だ。大事な出発点だから、会員の皆さまには一人でも多くのお客さまをご送客してほしい」

日本のふるさと「和み」の和歌山

和歌山には日本人に懐かしさを感じさせる風景や文化が残っている。来年9月14日～12月13日に展開される和歌山デスティネーションキャンペーンでは、その和歌山での「和み」の魅力を発信する。ここでは魅力ある観光資源の一端を写真で紹介していこう。

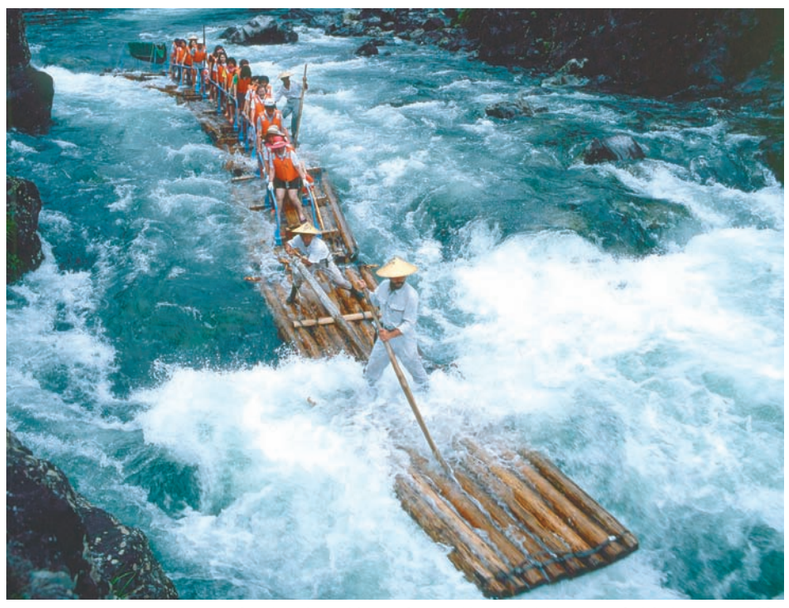
熊野古道 発心門王子　2004年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された熊野古道。発心門王子は熊野本宮大社の神域の入り口と言われている

魅力ある観光資源がいっぱい

那智の滝　那智四十八滝を代表する「一の滝」の落差は133㍍で日本一

根本大塔の胎蔵大日如来　弘法大師空海が開山した聖地・高野山。根本大塔は真言密教根本道場の象徴

ダイビング　このほか、カヌー、パラグライダーなど、自然を肌で感じる各種アクティビティを体験できる



北山川観光筏下り　全長30㍍の筏に乗り、約1時間かけて急流を下る。筏下りが体験できるのは日本で北山村だけだ

地旅博覧会in和歌山

世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参拝道」登録１０周年記念
第１０回国内観光活性化フォーラム記念 特別企画

２０１４年２月１１日(火･祝) １０時～１６時３０分
和歌山ビッグホエール　入場無料

【予定プログラム】
雑賀鉄砲衆による火縄銃演武、和太鼓、獅子舞、よさこい、ハイヤ節、
佐渡おけさ、ご当地キャラクターショー、宝塚歌劇団(OG)ショー
日中韓越交流イベントなど。(内容が変更になる場合があります)

※観光PRブース・商工業PRブース・物販ブース多数出展予定！
一昨年の豪雨により被害を受けた和歌山県を「地旅」で応援します。観光業界の皆様、是非和歌山県にお越しください。

主催：株式会社 全旅
http://jitabi.ne.jp/2014/
お問い合わせ先電話番号 06-6947-5050(全旅西日本支社内)　zenryo@zenryo.co.jp

後援：和歌山県、公益社団法人 和歌山県観光連盟、公益社団法人 日本観光振興協会、一般社団法人 日本旅行業協会、一般社団法人 全国旅行業協会